

Antoine Courtois
Paris

明るい音が立体的に出てくれる

アントワヌ・クルトワ

・AC420BHR & 今村岳志 (東京佼成ウインドオーケストラ)
トロンボーン奏者

東京佼成ウインドオーケストラのトロンボーン奏者であり、全員がアントワヌ・クルトワの楽器を愛用しているトロンボーン六重奏、クルトワ・ジャポンにも参加している今村さんに、愛器の魅力についてお話いただいた。

**楽器が演奏を助けてくれる
感覚があります**

今村さんが、トロンボーンを演奏する際に大事だと思っているのはどんなことでしょうか。

今村 常に「どう演奏したいのか」というビジョンを持つことです。自分のなかに演奏のイメージを持って、それと実際に出てくる音を比べながら自分の腕を磨いていくとよいと思います。

では、楽器に求めるものは？

今村 やはり、自分が思い描いたものが素直に出てくれることが一番大事かなと思います。音色も含めて、自分の表現したいことがストレスなくできるということですね。今使っているア

ントワヌ・クルトワのAC420BHRは自分にとって非常に吹きやすく、演奏したいことが容易にできる楽器です。東京佼成ウインドオーケストラで吹いているときでも、楽器が演奏を助けてくれる感覚があります。

使い始めたのはいつ頃からですか。

今村 大学4年生のときに、スターリングシルバーのベック・モデル (AC420MBOOST) を購入しました。その1年後にハグマンバルブのAC420BHを吹く機会があったのですが、それが衝撃的なほどすばらしかったんです。後で改めて試奏させてもらったらやはりとても吹きやすく、以来それを使っています。アントワヌ・クルトワの楽器は音が明るいとが華や

かによく言われますが、それに加えて音が立体的に出てくれるところが魅力だと感じています。あとはミシエル・ベックのイメージそのままにあたたかい音が出るし、美しいレガートがかかるのでしょいか。

**買いやすい価格でも
クオリティが非常に高い**

今村さんがお使いの楽器はいわゆるプロフェッショナルモデルですが、価格帯が下のモデルはどうなのでしょう。

今村 AC280BOというステューデントモデルがありますが、買いやすい価格にも関わらずクオリティが非常に高いです。多くの人にとって吹きやすいですし、それでいてクルトワの持つ魅力も十分に伝わりますので、

初めはこういう楽器を購入し、上達してやりたいことがはっきりしてから、自分に合う楽器に買い替えるというのではいいでしょうか。

Tb六重奏団・クルトワ・ジャポンはいかがですか。

今村 全員が同じブランドの楽器を使っているので音色が合うのはもちろんですが、それ



今村岳志 (いまむら・たけし)

2010年に東京藝術大学を卒業。トロンボーンを秋山鴻市、栗田雅勝、吉川武典の各氏に師事。東京佼成ウインドオーケストラトロンボーン奏者、クルトワ・ジャポンメンバー。トワイライト・トロンボーンカルテット、九州トロンボーンアンサンブル「ERNST」代表。トロンボーンアンサンブルをはじめとした編曲も多く行なっている。

以前にアントワヌ・クルトワの楽器を愛している6人なので、吹いたときに自然と方向性が合うんです。3月11日(月)には、クルトワのフリーゲルホルンの佐藤秀徳さんをゲストに迎えたコンサートも予定しています(日本福音ルーテル東京教会、19時開演)。たくさんの方に聴いてほしいですね。



アントワヌ・クルトワ AC420BHR ¥913,000

ハンドメイド仕上げのプロフェッショナルモデル「レジェンド」シリーズのなかで、F管使用時によりスムーズな角度で息が流れるハグマンバルブを採用したモデル。今村さんはゴールドプラス・ベルの楽器を使用。



アントワヌ・クルトワ AC280BO ¥357,500

アントワヌ・クルトワの長い歴史に基づく知識や技術を注ぎ込んだエントリーモデル。オープンラップを採用し、息の入りやすさと「アントワヌ・クルトワらしさ」を両立したモデル。

※価格はすべて税込で、2024年1月時点のものととなります。

